

「明日の京都」ビジョン府民交流会 京都は「明日」を考える



京都府では、府民の皆さんの声を伺いながら「明日の京都」の検討を進めています。

10年後、20年後の京都はどんな社会であってほしいか、そのために私たちは何をすべきか。その答えを求め、10月11日（月・祝）、京都商工会議所で、「安心」、「共生」、「京都力発揮」をキーワードに4人のパネリストが会場の意見も交えながら話し合いました。

パネリスト	山田 啓二	京都府知事
	門川 大作	京都市長
	立石 義雄	京都商工会議所会頭
	千 宗室	茶道裏千家家元（「明日の京都」ビジョン懇話会委員）
コーディネーターは 十倉良一 京都新聞社論説委員長		

安心 共生 京都力発揮



山田 啓二 京都府知事

明日の京都について、2年にわたり、府内各地で熱い思いを交わしてきて、今それが新しい京都府の計画として結実する時を迎えようとしています。

これまでは、道路などのハード整備を計画的に行うことに重点が置かれてきましたが、今回は急速に変化する社会に合わせ、人々が絆で結ばれ支え合い、地域の個性や資源を最大限に活かしながら、だれもが幸せを実感できる社会づくりを重点にしています。

このため「明日の京都」の検討案では、今まで当たり前と思ってきた安全な社会が危機に陥る中①誰かが安心して暮らせる社会をつくる「府民安心の再構築」②人の絆が薄れつつある中、互いを認め合い、心の通った社会を目指す「地域共生の実現」③文化や環境など

京都が持つている強みを活かして成長・発展を目指す「京都力の発揮」の3つの基本方向を示しています。この方向に沿って向こう4～5年間に目指す成果目標や具体的な方策を示す中期計画と、南北に長い京都府のそれぞれの地域の個性と魅力を発揮するための振興計画を定めていくこととしています。

人々の価値観が多様化する中、様々なニーズに対応していく行政の計画はある程度総花的にならざるを得ませんが、計画を執行していく段階で、一つ一つの言葉に命を吹き込み、「明日の京都」の実現のために全身全霊をかけて行動する決意で計画づくりを進めています。

とはいえ京都府がどのような計画を立てても、府民の皆さんの積極的な参加がなければ意味がありません。幸い、京都には永い歴史の中で培われてきた住民自治の意識がしっかりと根付いています。

「明日の京都」の主役は260万京都府民です。京都府はこれからも皆さんとしっかりと手を携え、だれもが幸せを実感できる希望の京都づくりに全力を挙げて取り組んでいきたいと思っています。

京都から日本の将来像を



門川 大作 京都市長

京都都市でも徹底した市民参加のもと、今後10年間に目指すべき未来像と主要政策を示す新しい基本計画や、行政区ごとの計画の策定が大詰めを迎えています。激動の時代、地域主権時代にあ

って、10年先を見通した計画とはそもそもどうあるべきか。初期段階から京都の若手研究者による「未来の京都創造研究会」を設置して、計画の必要性やあり方などを徹底的に議論していただき、従来型の計画ではなく、市民と行政が共に汗を流して行動するための指針として策定することしました。

策定段階では、若い世代の意見を反映するために設置した、概ね35歳未満の方で構成する「未来の担い手・若者会議U35」から、家庭生活、仕事、社会、地域貢献が調和する「真のワーク・ライフ・バラ

ンス」の実現が提案され、計画に大きく取り入れられました。府計画の方向性では、地域の力を重視するとされています。京都府も、京都の誇る住民自治の伝統や理念に基づき、また若者の積極的な参加も得て、生活者を基点とした将来構想を練っています。府市の一層の連携強化、政策の融合を図り、二重行政を解消し、縦割り行政を打破する。そして皆が未来像をしっかりと共有しながら、「参加と協働」でまちづくりを進めていきたいと思います。

京都ブランドの推進を



立石 義雄 京都商工会議所会頭

京都府が先般、防災、環境、観光、産業などの分野での広域的な連携を目的にした「関西広域連合」設立への参加を決定されたことも、京都経済界として大いに歓迎します。これが、市長の提案された東京圏一極集中打開の大きな一歩になるものと確信します。

商工会議所では、京都ならではのブランド力や、地域特性、強みを生かし、変わりゆく社会構造の中で生まれる新たな価値観を的確にとらえるため、中小企業が元気になる「知恵産業のまち・京都の推進」を提唱しています。

これまでの経済活動では、環境保護、資源エネルギーの節約、安心安全の確保、健康維持増進、食糧確保など「工業社会での未解決な忘れ物」があります。

こういった本質的な課題に対して新しい技術開発やものづくりの革新により解決していく知恵のある企業が点から線、面へと広がり、内需の拡大とポスト工業社会の実現を京都から発信することを、商工会議所では目指しています。

地域の遺産を次の世代へ



千 宗室 茶道裏千家家元

今 回京都府が示された長期ビジョンの「めざす社会の姿」を拝見すると、「絆」「自由」「文化」「交流」「地域」というキーワードが表現されています。

「絆」は信頼とも言え換えられます。信頼は長い時間をかけてこそ築かれるものです。ちょっとした齟齬で一瞬にして壊れてしまうものでもあります。「自由」も非常に奥深い言葉です。相手の自由、権利を認めてこそ自分の自由も保障されます。「文化」とは、端的に言えば、

地域の人たちが生活の場で発する汗の結晶だと考えます。人が一生懸命そこで生活を営めば営んだだけの文化が生まれます。反対に一生懸命さを捨ててしまえば、ただ怠惰に日を送るだけならば、文化は生まれないのです。「交流」は、お互

いの立ち位置がはっきりしてこそ、手を差し伸べ、触れ合うことができる意味だと考えます。京都を立て直し、足をおろそうというスタンスが大事です。「地域」とはそのエリアに住む人たちが、自分たちの町を知ってこそ地域に対する愛着が増し、それが一生懸命さを生んでくると思います。

このように、将来ビジョンとして言葉を発する人も、受ける人もそれだけの覚悟が必要です。明日の京都づくりに向けては、何を变え、何を守るといふ順番ではなくて、大切なものを守ってこそ変えなければならぬものが見えてくることを考えていたな気がします。

このところ、全国に点在する小京都が人気を集めているようです。どの町にも、現在の京都が失いつつある美しい町並みが残っています。京都に住む人たちが一人ひとりが自分たちの暮らししている地域の建物や生活習慣の遺産は何だろうと問い直して、それをどのように運用し、次の世代の人達に安心して住んでもらうような形で渡していくのかを考える時だと思っています。

「明日の京都」(中間案)

基本条例

「人を大切にし、人がつながり支え合う」といった府政運営や、地域づくりの基本となる理念・原則などを定める条例

長期ビジョン

10～20年先を展望して、だれもが幸せを実感できる京都をめざすビジョン。「府民安心の再構築」、「地域共生の実現」、「京都力の発揮」という基本方向を提示

中期計画

4～5年の間に達成したい具体的目標と府が推進する主要方策を示す計画

地域振興計画

山城・南丹・中丹・丹後の各地域ごとにその資源や特色を活かした計画